

しょうがいしゃ

ちいき せいかつ しょうほうし



「障害者」の地域生活情報誌

Vol. 35

ぶるーむ.com

2017.5

はるごう
春号

～ じぶん せいかつたの 自分の生活楽しんでいますか？ ～ .com初の対談企画！！



CONTENTS

P2 ぎょういくたいだん ぜんべん 教育対談 前編

P8 Oh-Life!! だい かい 第18回

P10 しょうめいていしゅつほうこく 署名提出報告

P11 かつどうほうこく 活動報告

◆「ぶるーむ」の由来◆

えいご 英語のbloomをひらがな表記したものです。
bloomには、「はな さ さいのう じぎょう などが) 花開く」などの意味があります。この
きたきゅうしゅう ち じりつせいかつ とじょう 北九州の地で、自立生活の土壌をあらため
ておこすことから始め、それぞれの自立生活
たね う いろ じりつせいかつ はな さ の種を植え、色とりどりの自立生活の花が咲
きほこるといふ願いをこめました。

教育対談！！

編集より一言

ども、編集のKⅡです。今回は「教育対談」ということで、ぶるーむ.com では初の対談形式となっています。対談形式では文字数がかなり多くなり、既定のページ数に収まらないため、このコーナー限定で普通の記事よりも文字を小さめ・振り仮名無しの形式で掲載したいと思います。多少読みにくいかもしれませんが、頑張って読んでもらえればと思います。実際に読んでもらって、読みやすかった・読みにくかったなどの意見があれば、今後の記事作りの参考にもしたいので教えてもらえると嬉しいです。

田中：田

高尾：高

油田：油

季松：松

高：教育に関する対談ということで、ぶるーむ事務局長の田中さんと、京都大学一年生の油田優衣ちゃん、九州国際大学の就職活動中の季松君にちょっとお話を伺いたいなと。

松：あ、え、対談するんですか。なんも準備してないんですけど。

高：まずいんですか？

田・油：私も初めて聞きました。

高：全然用意せんでいいけ。まあ、えー、田中さんは何年に大学に行ったんですか？今から何年前に？

田：1991年入学やから。もう26年前？

高：時代感しますね。で、ゆいちゃんが？去年？

油：・・・2016・・・、2016年です。

高：で、季松君が？

松：にせん、じゅうーうよねん？ え、あ、違う。じゅうさんねんです。

高：で大学行ったと。季松君は全部普通校。小中高ぜんぶ普通校に行って大学に行って、ゆいちゃんは中学まで特支で、高校から普通。で田中さんは高校まで特支。そこから北九州大学。

田：そやね。

高：もともと北九大目指した理由ってなんなんですか？

田：ああ、当時は高校受験がやっぱり普通高校希望したけど、当時はやっぱりなかなか受け入れ障害児難しくて、断念して、高等部にそのまま試験受けて行ったけど、やっぱり大学行きたいって思いはそこですごく強くて、でも当時、ゆいちゃんみたいによその地域に一人暮らしして、大学通うってイメージが全くなかったから、家から通える大学って考えたら、あーもう、北九大やなって感じて北九大に。

高：・・・ふーん。ゆいちゃんは？そのまず普通校に行きたいって思ったのは何で？

油：やっぱり小中で勉強面も交友関係面も満足いかない部分があって。

高：その満足ってのはもっとしたい、もっと勉強したいっていう？

油：勉強に関して言うと、やっぱり特別支援ってどうしてもペースは遅いし、えっと競う相手もないから、そんなに張り合いがなくて、その傍らで田中さんと同じように進研ゼミをやって、そういうなかでどれだけ特別支援の勉強が遅れているかがわかってしまったというのがあるし、あと交友関係において言うと、やっぱり特別支援は広い地域から集まって来てるし、自分の住んでる家の近くに友達が居なくて、学校終わってから遊ぶってことができないってのがあるから、なんかこうそれこそ進研ゼミの漫画に学生生活を描いた部分を見て、普通学校ってこんななんなんかなあとか、本当にそこだけが手がかりで、あとはちょっと弟から入ってくる情報を聞いたりとかで、それから普通学校に行きたいなあと思うようになった。

高：これ、でも普通学校になって、あ、余談ですけど、普通学校に行って自分が勉強していて、「あれ私これ京大行ける。」って思ったのってどこぐらい？

油：最初は何も大学も考えられなくて、行きたいとは思ってたけどイメージできてなくて、で何かある日模試を受けたら、意外とよくって(爆)。高1の最初らへんに仲の良かった友達と、その模試を受ける時に志望校を書かされるんですよ。で、友達と冗談半分で京大書いてみようって二人で書いたら、なんか意外と判定がC~Dで、あれ行けるかも(爆)ってなって。だから最初はあんまり考えてなくて、それから周りからの先生からのプレッシャーが。

高：おまえ行けるぞ。みたいな？

油：行けるぞっていうか、行けよみたいな。なんかまあ実績になるからみたいな。たぶん甘い道を通るのは許されないような雰囲気先生たちは出し、私もできる事なら行けるとこまで行ってみたいと思ったから。

高：その時に先生たちから、こう障害があるから無理だよみたいな話とかは別に無くて？

油：すごく心配はされたし、私が今でも印象深いのは学年主任の先生とヘルパーさん使って京都で一人暮らしって話をしたら、「ヘルパーさん使ってるのに一人暮らしって言うの？」って言われて、あーもう、そっからかあって思って。あと先生たちはやっぱりその・私みたいなケースは初めてだったから、バスに乗れるかさえも心配されたし、声出すのさえも心配されたし、私の伝え方も甘かったなってのは凄いあるけど、先生たちは凄い心配していたかなあ。

高：でもそこにチカラ使うとね、説明するのにチカラ使うもんね。

油：って先生たちは心配するのに、京大に行けて言うから訳わかんないですけど(笑)。

高：季松君は進学って特に考えてなにかしたの？

松：僕は全然記憶ないんですけど、小学校の時は親が、周りの障害者の子より僕がけっこう喋れるから、口数が少ない子が多い特別支援より、普通小学校に行かせたいっていう希望があって、小学校の校長先生と相談して、最初はやっぱり不安だからってのがあって丸一日親が教室の前に居たんですよ。トイレの時間帯とかもあるからそんな時は親にしてもらってやってたんですけど、もう通学して半年ぐらいから校長先生がもう親は必要ないって言ってくれて、でもトイレの時間が心配だからって、それでヘルパーステーションから派遣を毎日休み時間とかに来てもらって、トイレだけをさせてもらって、あとは普通の学校の一日を過ごすみたいな。

田：そのヘルパーは自腹？

松：自腹です。

高：季松君ちって裕福なの？

松：いちおう。

高：・・・ちなみに親の介助とかってのはよくある「あるある」なの？普通校に行きたての時の親の介助「あるある。」やっぱり普通校に行き始めは親がずっと来てたの？

油：あのその、トイレ介助はしない、身辺介助はしないって言われたから、そこを自分で人材を確保するしかなくて、自腹で一日二回って決めて、一回1000円くらい。安くて800円とかで来てくれる事業所があったんだけど、それを1か月やってそのヘルパー事業所が行けないって部分は祖母が来るっていうハードスケジュールで、こりゃ無理だっとなって続ける気もさらさら無かったから、私が住んでる苅田町に学内でも福祉サービス使えるようになってお手紙を書いたら、そっから私費じゃなくて苅田町が公的サービスとして提供してくれるようになりました。

高：でもまあ、これはよくある話ですよ。田中さんも親の介入って。

田：高校受験の時にやっぱり親がついてもらわなねって話があって、大学の時はそのころまだ学内でゆいちゃんみたいな学内介助者みたいなのは全然なくて、その時の俺の選択肢に学内介助者っていう発想すら無かったわ。で、あとは親か友達に頼むしかないっていう選択肢しか俺にはなかったわ。18 才にもなってずっと親と一緒にちゅうのは嫌やけど、そこはちょっと送り迎えだけは親にしてもらって、学校で車イスに乗り換えた後は、一人で友達に声をかけて関係を作りながら必要な介助を頼むっていう。

高：それこそ制度を利用して就学するのも普通の権利だと。就労に関しては認められて無いんやけど、就学に関しては障害持っても普通に学校に行って、行政がそこそこ手を貸してくれたりとか、教育委員会が手を貸してくれたりとかっていうケースもちょいちょい出てきよる。そこらへんは当事者が障害持っても普通に学校に行くってことが認められてきたんかなという漠然とした感覚はあるんですけど。

で、話は戻るんですけど義務教育って中学までじゃないですか。そこから高校大学に進もうと思ったきっかけってなんですか？

松：僕が最初になりたかった夢が、アナウンサーなんです。自分が中学の時に一度アナウンススクールに見学に行って、講師の人にアナウンサーになるにはどうしたらいいですかって聞いたら、「4 年制大学に行きなさい」って言われたので、4 年制大学に行こうと決意して今の大学に行きました。

高：なるほど。いま夢の話でましたけど、何か夢ありました？田中さん。

田：あーウチの自立生活センターの自立って言ったら、自分で自分のことを決めるってのが自立って言いよるけど、当時の僕は大人になれば経済的自立をしなきゃいけないって思ってたから、何か仕事をしなきゃいけない、でも当時の交通機関のバリアフリー状況やと普通に会社勤めして通うってのは全然イメージできなくて、だから、じゃあ自宅でも仕事できるものって考えたときにいろいろ調べたら、弁護士はあまりにも難しすぎるけど、司法書士ってのがあると。でまあ看板あげて家で開業してる人も多いうって聞いて、じゃあもうこれを目指そうと思って。あ、でもきっかけのひとつに高 1 の時に新聞記事で先輩の北九大の大学院生で車イスの人が司法書士になったって記事を見たんよね。それ見て身近な北九大行って司法書士なってる人いるんだと思ったのも大きいかな。

高：ゆいちゃんはさっき言いよった・・・なんでしたっけ？ああ、臨床心理士になろうと思ったきっかけとか時期とかは？

油：中学の時から興味はあったし、自分の育ってきた家庭環境とかにも影響受けてる部分は大きいかなと思います。

高：たとえばさっき田中さんの話の中で出てきた、当時の公共交通機関では継続して通勤ができないとか、そこらへんの事とかって別に特になにも？

油：いや中学校の時とかは本当に将来のイメージとかはできてなくて、働くイメージとかも全くない中で漠然と臨床心理士っていうのがあるんだなってくらいで。だからそんなに田中さんみたいに司法書士だから家でできるみたいに具体的なことまでも全然イメージしてなくて。

高：季松君は？

松：・・・僕も・・・特に・・・。高校の時はアナウンサーになりたいて夢があったんですけど、今は無くなったというか、まだ定まってないんですね。なのでこれからどうなるのかなと、わかんないです。

高：なるほど。ちょっと外から質問のリクエストがきたので聞きたいのですが、普通校と特別支援学校の違いとはなんですか？じゃあまず特支には行った事がない季松君、どんなところが違うと思いますか？

松：あの・・・普通校は一回の授業でこの範囲からこの範囲までいかないといけないみたいな、そういう決まりがあるけど、特支は生徒の理解度によって進めるみたいな。

田：あるね。ゆいちゃんは中学の時に教科書は三学期終りに最後までいって終わってた？

油：終わらせる先生もいたけど、ゆるかったかな。

田：俺の時は1年の教科書じゃあ1年までに終わらないといけんって空気は全然なかった。

油：空気はなかったですね。普通校みたいに先生が、ハイ急げ急げっていう空気はなかった。高校と中学の違いはあったかもしれないけど。特支は人数も少ないしテストもみんな違うし、んーまあ楽だったかな。

高：じゃあ実際に中学まで特支に行った、ゆいちゃんを感じる普通校と特支の違いを。

油：違いが大きすぎてどこから話していいかわからないんだけど、当たり前のとこから言うと、人数が全然多いし、先生の介入具合も特支と全然違って特別支援ってどちらかと言うと、先生との繋がりのほうが同級生より濃かった気がするのね。で、まあその分って言えるか分からないけど特支の同級生とは繋がりが薄かったっていうのがあって、普通高校に入ったら先生なんてホームルームの時だけで、生徒同士の結束が強かったかな。まあ良い結束も悪い結束もあったけど(笑)。良くも悪くも生徒同士の結びつきは強かったかなあ。特別支援の先生ってやっぱり私たち生徒の事をずっと見てくれてるけど、普通校の先生は何百人の生徒を見ているわけで、こっちから言わないと気付いてもらえないのは当たり前だなって。

高：障害を持っている人って基本的に用意されている状況に行くことが多いですよ。

油：特支はそうですね。

高：それなりの配慮があるところに行くって選択肢が多いと思うんですけど、普通校は違うんですよ。自分でこういう配慮が必要だって言わないと受けられないっていう。

油：身体状況とかも先生からしたら何で字を書くのがつらいのか、どうして字が薄いんだろうってとこがやっぱりわからないから、ちゃんと伝えなきゃなあってのは結構思ったりしましたね。そういうところから認識が違ったりしたのかなって。

高：実際それって苦痛でしょ？

油：いや苦痛とまではいかなかったけれど・・・。せめて担任の先生には知っとって欲しかったなと思うけど、別にまあそれは私が伝える部分だったと思うし・・・。

高：これ、世の中の人達に疾病名であるとか、どういう特性があるだとかって、みんながそれを理解するって僕は無理だと思うんですよ。で、その中で自分にどうゆう配慮が必要なのかっていうのは、それは本人が言えば良いんじゃないのかなって思うんですが。

油：うん、伝える術は持ってたほうがいいけど、全員に知ってもらう必要はないとは思う。まあでもせめて3年間一緒の担任の先生ならもうちょっと勉強しても・・・んーでもわかんないなあ学校の先生とは違うから・・・。でも伝える術は持ってたほうがいいのは間違いない。

松：僕は高校入るまでは親から送り迎え手伝ってもらってたんですけど、高校入るころに親から「もうそろそろ自立せなよ」って言われて、一人で登下校するようになったんですよ。でも高校には中学の頃の友達はいなくて、どうしようって思ったんですけど、入学したらまさかの高校がウェルカム状態で、「もし友達が居なくてお手洗いが厳しいときは、先生とか誰にでも言ってね」って言われて、保健室行ったりだとか、だれか呼んでしてもらったりだとか、そういう面では有り難かったですね。

田：普通校と特支の違いかあ。んー、他の人が言ったように人数は全然違うよね。大学入ったときは人数の多さに圧倒されたし、やっぱり特支はこっちが何にも言わなくても周りの先生とかが手を差し伸べてくれる。でもそれは普通校ではたぶん無いんだろうなって思うけ、自分から言わないと孤立してしまうってのはあるかなってのは思うね。

じごう つづ
次号に続く！

ゆだゆい 油田優衣さんプロフィール

ふくおかけんしゅっしん げんざい きょうとだいがくきょういくがくぶ に かいせい せきすいせいきんいしゆくしょう しょうがい げんざい じょうじ
福岡県出身で、現在は京都大学教育学部の二回生です。脊髄性筋萎縮症という障害があり、現在はほぼ常時
かいじょしゃ ひとりく ちゅうがっこう とくべつしえんがっこう こうこう ふつうがっこう かよ
介助者をつけながら一人暮らしをしています。中学校までは特別支援学校に、高校からは普通学校に通っていま
した。外に出て歩き回る（もちろん電動車椅子で！）ことや歌うことが好き。

すえまつひろき 季松大貴さんプロフィール

きゅうしゅうこくさいだいがくけいざいがくぶ かいせい す た もの なま すし す じぶん おもしろ
九州国際大学経済学部4回生。好きな食べ物は生ハム・寿司。好きなアーティストはAKB48。自分の面白
いところは、なん すなお しん でんしゃ くわ
いところは、何でも素直に信じすぎる事・電車で詳しいことです

Oh-Life

第18回 世界は1枚のカードから始まった・・・！？

KII

僕は、一度物事にハマるとなかなか飽きの来ないタイプで、遊戯王カードなどは、20年くらいの付き合いである。20年も同じ趣味続けていると、とても感慨深い気持ちになる。というわけで、今回の話は、僕と遊戯王について書こうと思う。遊戯王とは20年前くらいに週刊少年ジャンプで連載されていた漫画のことで、その作中に登場したカードゲームを商品化した物が遊戯王カードである。本当はもっと説明したいのだが、この話の尺の都合上、これくらいにしておく。

僕が遊戯王カードと出会ったのは、小学校3年生の頃だった。当時の遊戯王カードの人気は絶大で、どの店も売り切れ→再入荷→即売り切れという状態だった。色々な店を回って（主に母が）ようやく手に入れ、友達と遊ぶことができた。

だが遊んでいくうちに、普通の友達との機動力の差が生まれだした。こういうカードゲームをやっていると「どこどこのお店で買うと必ず良いカードが当たる」という話や、「レアカードを単品で1枚買いでできる専門店がある」という話が必ずでくる。ちなみに、遊戯王カードの主な入手方法としてはスーパーやコンビニなどで5枚入り150円のパックを買うか、専門店やゲーム屋などで、欲しいカードを1枚買いくるかである。そうすると、健常の友達はすぐにその店に行けるのだが、僕は一人では移動できないので、まず母に相談しなければならない。友達は「チャリでひとつ走りくらいの距離だよ」と無邪気に言ってくれるのだが、僕がその言葉を母にそのまま言ってしまうと、確実に怒られてしまう。

なかなか上手くカードを入手できないことに悩む僕であったが、その悩みはあっさり解決された。ある日、理由は良く覚えていないのだが、僕は母の逆鱗に触れてしまい、持っているカードを全て捨てられてしまった。お気に入りの「真紅眼」のカードが生ごみと融合していく様は、小学生の僕がカードを辞めるのに十分なインパクトだった。

そして、月日は僕が大学生の頃まで流れる。大学の頃の友達に遊戯王カードをやっている友達がいたので、それに引っ張られる形で再び僕も始めることになった。前に不本意に辞めたせいか、またハマるのもあっという間だった。そして、それと同時に、前回の時にもあった「機動力の差」問題も再浮上してきた。

あと、大学生の僕は「1枚買い」をどうしてもやってみたかった。だが、流石に大学生にもなって親に「カード専門店で連れて行って」とは言えないし、連れて行ってもらったとしても、親の目が気になって素直に買い物できないだろう。ここでヘルパーを利用するという選択肢が挙がってくる。当時の僕は、ヘルパーを利用することに抵抗があった。だが、「自分の好きなように1枚買いをしたい」という欲求はとても強く、ヘルパーを利用することとなった。

ヘルパーを利用し始めてからは、欲しいカードをより安く入手するために色々なお店をまわった。ヘルパーを利用する以前の僕は、外出することがあまり無かった。(これは、ヘルパーの有無というよりも、単純に学校生活が忙しかったということもあるのだが・・・)欲しいカードを探しつつ、自分の行ったことのない場所に行けるという経験は、僕にとってとても楽しいものだった。ただ、お店を見て回る交通費で自分の欲しいカードが普通に買えていたということに気付いたのは、意外と最近のことである(笑)。そういえば僕がぶる一むに初めて行ったのもこの頃である。その日も、ちょうど新しいカードパックの発売日だったような・・・。

ぶる一むの介助者を利用するようになってからは、行動範囲がさらに広がり、三宮・大阪・秋葉原などのオタク街がある地域に泊りで遠征し、カード屋を物色してまわるという経験もした。もちろんカード探しだけが遠征の目的ではないが、我ながら、カードのためによくやったなと思う。現在、僕は一人暮らしをしていて、とりあえず落ち着いた生活が送れている。これには、介助者を利用して色々な場所に行ったり、宿泊したりしたこと積み重ねた経験が役に立っているのではないかと思う。

初めて介助者を利用した約10年前には、自分が親無しでの遠征や一人暮らしをするようになるとは思ってもいなかった。だが、そんな僕が10年経った今では一人暮らしをしているのである。本当に人生は何が起こるかわからない。

「世界は1枚のカードから始まった・・・。」これは、遊戯王の世界ではよくある設定である。一般人から見るとギャグみたいな設定だが、カードを買うために介助者を利用して始めて、そこから一人暮らしまで行きついた僕からすると、この設定もまんざらでもない気がする。

ツッコミ所満載だが、20年も遊び続けていると、不思議な愛着が湧いてくるのである(笑)最近少し飽き気味なのだが、なんだかんだでまだ長い付き合いになりそうだ。

JR九州の駅無人化反対署名のご報告

昨年末から始めた署名運動ですが、皆様のご協力のおかげで2891名(4月1日時点)の署名が集まりました。この度の署名運動へのご協力厚く御礼申し上げます。

現在、日本全国で鉄道会社が、廃線や駅の無人化を進めている状況です。しかし車の運転がままならない高齢者や障害者に限らず、妊婦やベビーカー利用者にとってもJR九州は重要で貴重な移動手段であり、誰もが安全快適に利用できるものでなければなりません。われわれ障害者は、障害のない者と同様の移動する権利を求めてきました。昨年、障害者差別解消法が施行され、いよいよ社会一丸となって平等社会の実現に向かって動き出しました。この法では企業にも合理的配慮の義務が課されています。JR九州無人化はこの社会の動きにむしろ逆行するものです。

今後も私達ぶる一むは、皆様のご協力のもと、北九州市や九州運輸局に働きかけ、この状況の改善に向け真摯に努力し取り組んで参りたいと思います。

「無人駅なくして」
障害者ら署名渡す
JR九州本社を訪問

JR在来線の無人駅が近年増加していることを受け、車いすを使っている北九州市の障害者たちが3日、福岡市博多区のJR九州本社を訪れ、無人駅の廃止を求める2791人分の署名を手渡した。写真。

JR九州は、管内の半数以上の295駅が無人駅(4日時点)。JR九州は支援が必要な乗客が無人駅を利用する場合、前日までに予約すれば介助している。



署名は、北九州市のNPO法人「自立生活センター」

ぶる一む」が昨年末から、同市の障害者施設や福祉団体を中心に全国に呼び掛けした。ぶる一む側は、やむを得ず無人化する場合でも、車掌が対応するなど健常者と同様の利便性で乗車できるように要望している。ぶる一むの田中雄平事務局長(44)は「障害者の移動の自由が脅かされている。早期の改善をお願いしたい」と話した。

(横田理美)

2017年 3月4日(土)

西日本新聞掲載

かつどう ほうこく
活動報告

へいせい ねん がつ へいせい ねん がつ
平成28年11月~平成29年1月

11月 

1月 

JR九州カスタマーサポート研修

はつもろで
初詣

JR九州カスタマーサポート研修

ヘルパー研修②A「障害者と差別について」

よろず!!

スタッフ研修「制度の最新状況」

ヘルパー研修①『災害・危機管理』

北九州市立大学「地域の達人」出前講義

福岡県立大学市民ボランティア
養成講座出前講師

福岡県立特別支援学校ピアカン教室

ふるーむ理事会

推進協小倉研修

ちいきこうりゅう もち かいさい
地域交流で餅つきイベント開催!!

12月 

JR九州カスタマーサポート研修

スタッフ研修『最新制度動向』

ヘルパー研修

JIL全国セミナー in 福岡

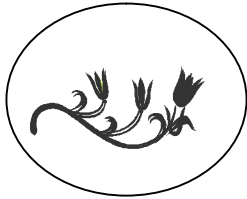
差別解消条例にかかる
県民意見聴衆回参加



へん しゅう こう き
編集後記

風邪を2回ほどひいてしまいましたが、どうにか冬を乗り越えることができました。次は夏ですね～（笑） どうなるんでしょうか？ 【KⅡ】

■ **ロゴについて** ■



この3つが繋がったチューリップには、3J＝「自己選択」「自己決定」「自己責任」の意味と、この北九州の地で自分らしい、いきいきとした花を咲き誇らせてほしい・・・という願いがこめられています。

■ **会員募集** ■

自立生活センターの最大の特徴は、運営や各種サービスを「障害者」自らが中心となって行っていることです。これは、「障害者」にとって何が必要かということが一番知っているのは「障害者」自身であると考えからです。

「自立生活センターぶるーむ」はこの考えのもと、2007年10月に産声をあげました。当団体の活動は、皆さまからのご寄付と会費により支えられています。

ご支援とご協力をお願い致します。

会員種別	年会費
正会員 当法人の目的に賛同し、法人の活動に責任を持って参加していただける個人の方。	3,000円
賛助会員 当法人の事業を資金面などで賛助していただける個人及び団体の方。	5,000円

【銀行振込】 銀行名：西日本シティ銀行 室町支店
 口座名義：特定非営利活動法人 自立生活センターぶるーむ 理事 田中雄平
 口座番号：1694039

編集人 連絡先 NPO法人 自立生活センターぶるーむ
 〒803-0818
 福岡県北九州市小倉北区豎町2-1-5 豎町ビル1F
 TEL 093-562-5431
 FAX 093-583-3257
 E-Mail cil-bloom@nifty.com
 URL <http://homepage3.nifty.com/cil-bloom/>

定価 100円